

科目名	家庭基礎	単位数	2	必修選択	必修
教科書	新図説家庭基礎(実教出版)				
副教材	なし				

教科・科目の内容

少子高齢化への対応や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進等を踏まえて、自立して生活する能力と異なる世代とかかわり共に生きる力を育てることが必要になっています。

人の一生を見通し、衣食住生活についての科学的な理解を深めるとともに、生涯の生活設計の学習を通して、生涯にわたって能力を活用して課題を解決できるように学習していきます。

日常生活や将来とのつながり

どうしたら「自分らしく」「健康的な」生活がつくれるのかを考えるようになります。真剣に取り組んでいくと、「こうきたい」という願いが生まれます。現状を改善したり、学んだことを実行したり、生涯を通して、いろいろな場面に応用できる生活の技術が身に付きます。

調理学・栄養学・福祉学・保育学・環境学・経済学・住居学などの分野を学ぶ上での基礎を知ります。

この授業の学習方法(予習と授業の関わり)

常に問題意識・幅広い興味関心をもって毎日の生活を送りましょう。

実習、実験などを取り入れて、生活科学の理論を正確にわかりやすく学び、応用、発展させます。

グループ活動を通して、他の人たちの意見や価値観を学び、自分らしい生活について考えます。積極的に取り組み、各自の生活の中で実践していきましょう。

到達目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

評価方法

①関心・意欲・態度(ワークシート・課題・実習の振り返り・作品)

家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。

②思考・判断・表現(ワークシート・課題、実習の振り返り・定期試験)

家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。

③技能(課題・実技)

家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。

④知識・理解(定期試験)

家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

指導学年	科目名	単位数	教科書名(出版社)	副教材名
1年	家庭基礎	2	新図説家庭基礎(実教出版)	なし

学期	学習内容	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価の観点			
			関	思	技	知
一学期	第1編 人とかかわって生きる 第1章 自分らしい生き方と家族	・生涯発達の視点で青年期の課題を理解する。 ・男女が協力して、家族の一員として役割を果たして家庭を築くことの重要性について探究する。 ・家庭や地域の生活を創造するために自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することの重要性を理解する。 ・課題提出	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○
	第1編 人とかかわって生きる 第2章 子どもとかわる	・乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について関心を持つ。 ・子どもを生み育てることの意義を考える ・子どもの発達のために親や家族及び地域の社会の果たす役割について探究する。 ・実習を通して乳幼児を身近な存在としてとらえ、交流する中で保育の在り方を考える。【保育実習】	○ ○ ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○
	第1編 人とかかわって生きる 第3章 高齢社会とかわる	・高齢期の特徴と生活について関心を持つ。 ・高齢社会の現状と課題について理解する。 ・高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について探究する。 ・課題提出 ・夏期休業中の課題	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○
	※期末試験			○		○
二学期	第2編 生活をつくる 第6章 衣生活をつくる	・被服管理に必要な被服材料、被服構成について関心を持ち、知識を身に付ける。 ・目的に応じて着装を工夫し、健康で快適な衣生活を営むことができる。 ・被服製作を通して、基本を身に付ける。【被服実習】 ・作品提出	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○
	第2編 生活をつくる 第1章 食生活をつくる	・自分自身の食生活について関心を持ち、その改善のために必要な方法を考察する。 ・健康で安全な食生活の為に必要な栄養、食品の知識を身に付ける。 ・調理および食品衛生などの知識と技術を習得する。【調理実習】 ・生涯を見通した食生活を営むことができるようにする。 ・冬季休業中の課題	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○
	※期末試験			○		○
	第3編 消費者として自立する 第1章 消費行動を考える 第2章 経済的に自立する	・消費生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解させ、適切な意思決定に基づいて行動できる ・生涯を見通して生活における経済の管理や計画について考えることができる ・富士市消費生活センターなどの講話	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○
三学期	第2編 生活をつくる 第3章 住生活をつくる	・住居の機能、住居と地域社会とのかわりなどの必要な知識と技術を習得する ・安全で環境に配慮した住生活を営むことができる		○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	ホームプロジェクト	・身近な生活から課題を見だし、解決方法を考え、計画を立て、実践し、反省と評価を行うことができる、ホームプロジェクトの課題提出	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	※学年末試験			○		○

備考

コロナウイルスの感染状況により内容が変更となることがあります。